Title 大陽の上皮置換による新規治療戦略の開発 Sub Title Development of a novel therapeutic strategy by colon epithelial conversion Author 杉本、真也(Sugimoto, Shinya) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2021 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る。重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根炎 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い語絵率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている、小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた炎 略の確立を自指すことを目的とした。手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学等的制 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした。まず、わず効 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというとト短腸症候群に多重しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した、ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ違伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを植したによる、部族則 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の水となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した。盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイド移植群に比して緩やかな体重減少にとと 、有意に生存期間が延長した、さらに、回腸オルガノイド移植に組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal reserved leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevente widespread use this treatment. Therefore, development of a novel therapeutic strategy for S	
Author 杉本,真也(Sugimoto,Shinya) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2021 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根治 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附調 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ遺伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化にた回腸オルガ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resear leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has preventer	
Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2021 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根炎 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた炎 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附離 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドにで置換するというに、EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮オルガノイドを種間した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した. 盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイド移植群に比して緩やかな体重減少にとど 、有意に生存期間が延長した.さらに、回腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resea leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has preventer	
Publication year 2021 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書(2020.) JaLC DOI Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根炎 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた炎 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附調 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドの覆髄のため、ルシフェラーゼ遺伝子を努 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した.盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイドを植間に比して緩やかな体重減少にとど 、有意に生存期間が延長した.さらに、回腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resect leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented	
Jittle学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)JaLC DOIAbstract小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る、重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根治 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている、小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治 略の確立を目指すことを目的とした、手術に適した動物モデルを用いることとした、まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した、ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ遺伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した、EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した、盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した、 The small intestina is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resea leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented	
JaLC DOI Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根治 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附離 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ遺伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した.盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestina is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resea leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented	
Abstract 小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、 症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根治 治療法となりうるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず、短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附調 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず、わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により、 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ遺伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドを植群に比して緩やかな体重減少にとど、 、有意に生存期間が延長した.さらに、回腸オルガノイドを植能に比して緩やかな体重減少にとど、 、有意に生存期間が延長した.さらに、回腸オルガノイドを植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resear leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented	
症候群と呼ばれる栄養不良状態に至る.重症の短腸症候群患者では,小腸移植が唯一の根治 治療法となりうるが,他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及しておらず,短腸症候群 する新規治療法の開発が求められている.小腸の構造の複雑さゆえに,腸管上皮オルガノイ 用いた再生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では,大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治 略の確立を目指すことを目的とした.手術に適した動物モデルとして,臓器再生医学寄附請 林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとした.まず,わずか 存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというヒト短腸症候群に矛盾しない結果により, 療戦略の妥当性を確認した.ドナーオルガノイドの標識のため,ルシフェラーゼ遺伝子を発 るトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを使用した.EDTAによる粘膜剥 術の組み合わせにより,ラット大腸上皮の除去が可能となり,様々な最適化によって,ラッ 腸の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した.盲検化した回腸オルガノ 移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オルガノイド移植群に比して緩やかな体重減少にとと ,有意に生存期間が延長した.さらに,回腸オルガノイドを移植した組織において、LYVE の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resea leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrom (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented	
warranted. The structural complexity of the small intestine has precluded the application of organoid-based regenerative medicine to small intestinal diseases. To establish a clinically relevant therapeutic strategy for SBS by means of colon epithelial conversion using small intestinal organoids, we elected to use a rat SBS model for their tract First, we successfully confirmed that preserving a short length of the ileum prevents intestina failure in the rat SBS model, which is consistent with the clinical presentation of human SBS label donor organoids, we used small intestinal organoids derived from Lewis luciferase tran rats. EDTA-based breaching in combination with surgery enabled the removal of the rat colo epithelium, and careful optimizations allowed us to overlay epithelium-depleted rat colon with intestinal organoids. Ileum organoid-transplanted SBS rats exhibited milder body weight loss significantly higher survival rate compared to colon organoid-transplanted rats. Furthermore, confirmed a formation of LYVE-1+ lacteal-like structure equipped with the absorption-related machinery in ileum organoid-transplanted tissues.	的にド 療座な,現離トイま1 tio e set tas ab 」 Togic sand な対を 戦小残治すと大ドり性 ree is tilt o eic mall and
Notes	
Genre Research Paper	
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=202000008-20200	278

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2020年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	坂口光洋記念講座(オルガノイド医学)	職名	助教(有期)	補助額	1,000 (特A)千円		
	氏名	杉本 真也	氏名(英語)	Shinya Sugimoto				
大腸の上皮置換による新規治療戦略の開発								
Development of a novel therapeutic strategy by colon epithelial conversion								
1. 研究成果実績の概要								
小腸は栄養吸収を担う主要な臓器であり、その広範な切除では十分な消化吸収が行われず、短腸症候群と呼ばれる栄養不良状態に 至る、重症の短腸症候群患者では、小腸移植が唯一の根治的な治療法となりるが、他臓器に比べて著しく高い拒絶率のため普及し ておらず、短腸症候群に対する新規治療法の開発が求められている、小腸の構造の複雑さゆえに、腸管上皮オルガノイドを用いた声 生医療の小腸疾患への応用はこれまで現実的なものではなかった. 本研究では、大腸上皮を小腸上皮オルガノイドに置換するという臨床への応用を見据えた治療戦略の確立を目指すことを目的とした. 手術に適した動物モデルとして、臓器再生医学寄附講座 小林英司特任教授と共同開発したラット短腸症候群モデルを用いることとし た、まず、わずかな残存回腸の長さの差異により腸管不全をきたすというに短腸症候群に矛盾しない結果により、治療戦略の妥当性 を確認した。ドナーオルガノイドの標識のため、ルシフェラーゼ遺伝子を発現するトランスジェニックラット由来の小腸上皮オルガノイドを 使用した。EDTA による粘膜剥離と手術の組み合わせにより、ラット大腸上皮の除去が可能となり、様々な最適化によって、ラット大腸 の大腸上皮を小腸上皮オルガノイドで置換することに成功した。盲検化した回腸オルガノイド移植群の短腸症候群ラットでは、大腸オ ルガノイド移植群に比して緩やかな体重減少にとどまり、有意に生存規間が延長した。さらに、回腸オルガノイドを移植した組織におい て、LYVE-1 陽性の吸収能をもった乳び管様構造が形成されることを確認した. 2. 研究成果実績の概要(英訳) The small intestine is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestina is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestina is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestina is the primary site for nutrient absorption. Extensive small intestinal resection leads to inadequate digestion and malabsorption, a condition known as short bowel syndrome (SBS). Intestinal transplantation is currently the only potentially-curative treatment option for severe SBS patients, but severe allogenic reaction reduces the graft survival rate and has prevented the widespread use this treatment. Therefore, development of a novel therapeutic strategy for SBS is warranted. The structural complexity of the small intestinal resection using small intestinal diseases. To establish a clinically relevant therapeutic strategy for SBS is warranted. The structural complexity of the small intestinal organoids, we used small intestinal organoids derived from Lewis luciferase transgenic rats. EDTA-based breaching in combination with surgery enabled the removal of the rat colonic epithelium, and careful optimizations allowed us to overlay epithelium-depleted rat colon with small intestinal organoids. Item organoid-transplanted SBS rats exhibited milder body weight loss and significantly higher								
survival rate compared to colon organoid-transplanted rats. Furthermore, we confirmed a formation of LYVE-1+ lacteal-like structure equipped with the absorption-related machinery in ileum organoid-transplanted tissues.								
equipped with			研究課題に関う					
	 者氏名	発表課題名		発表学術誌名	学術誌系			
	講演者)	(著書名・演題)		皆書発行所・講演学会)	(著書発行年月	・講演年月)		
杉本具也, 小 陽二, 金井隆勇		短腸症候群に対するオルガ による臓器リモデリング	ノイト 弟 19 [回日本冉生医療字会総会	2020 年 5 月			
Masayuki F Sugimoto, Tosł		Linking human intestinal sca and organoids to combat int failure		Medicine	2020 年 10 月			
杉本真也		腸管オルガノイドによる上皮電 略に基づく再生医療	置換戦 第 20 [回日本再生医療学会総会	2021 年 3 月			
杉本真也		オルガノイドを用いた短腸症 治療アプローチの開発			2021 年 3 月			
杉本真也		再生小腸グラフトの開発	ン・小服	回日本腸管リハビリテーショ 易移植研究会	2021 年 3 月			
Kobayashi, M Yuki Ohta, Kaz Matano, Kei Kentaro Miya	asayuki Fujii, uya Arai, Mami ko Ishikawa, amoto, Kohta rirat Takahashi, Yoji Hakamata,	An organoid-based or repurposing approach to short bowel syndrome	organ- Nature treat		in press			